

みんなで楽しく まちをきれいに

「仮装をして、ゴミを拾っていると車の中から手を振ってもらえたりして参加する側はもちろん、見る側の印象もこれまでとは大きく変わったと思います」とイベントを振り返る寺島真一郎さん。

市制施行40周年をきっかけに市内でまちづくり活動をしている団体などにより設立された『のぼりべつ元鬼協議会』。発足当時から行っているクリーンウォークに『ハロウィン』の要素を盛り込んで実施したのは、寺島さんが事務局長に就任してから3年目の平成30年。さらに多くの参加を呼びかけるために、何か良いアイデアはないかと意見を出し合って行き着いたのがハロウィンだったといいます。

今回、人気映画の主演に扮して参加した寺島さんは、「2年目ですが、参加者それぞれの趣向を凝らした仮装に刺激されて、ごみ拾いの途中から、来年の仮装を考えている人もいました。まだまだ一般の参加者は少ないですが、来年も多くの参加者を募り、登別市の名物の一つになったら」と笑顔で教えてくれました。



▲イベント終了後の参加者たち

活気ある まちづくりを目指して

「まちづくりに参加したいと思っているけど、もう一歩踏み出せない人が市内にまだまだいるはず」。

『ハロウィンdeクリーンウォーク』をはじめ、成人祭やのぼりべつ夏祭りなど、市内で行われる多くのイベントの運営に携わっているという同協議会では、来年迎える市制施行50周年に向けての計画も進めており、共にまちづくりに参加する人を随時募っているといいます。

「イベントは、主催者だけでなく、参加者と共に作り上げていくもの」と語る寺島さんは、「より多くの人がまちづくりに参加しやすいきっかけを企画していきたい」と今日もまちの活性化に向けて仲間と共に汗を流します。



KIRARI

てらしま しんいちろう
寺島真一郎さん (富岸町)

10月27日(土)、寒空のもと、さまざまな衣装に身を包み沿道のごみを拾う姿を見た人も多いのではないのでしょうか。のぼりべつ元鬼協議会が主催した『ハロウィンdeクリーンウォーク』です。きれいなまちにしようと、関係団体など多くの協力を得て毎年行ってきた同イベントは、昨年からは参加者が仮装をして行われています。

今号では、同イベントの運営に携わっている同協議会事務局長の寺島さんに、まちづくりに対する思いなどについて伺いました。

楽しいイベントで明るい まちづくりに取り組む



昭和47年、登別市生まれ。47歳。

札幌大学を卒業後、衣料関係の職務経験を経て、現在は有限会社アサヒ堂で代表取締役を務める。のぼりべつ元鬼協議会事務局長としてまちづくり活動などに積極的に取り組んでいる。